



県営名古屋空港への 公共交通アクセスの 強化・拡充に関する要望



平成 27 年 7 月

県営名古屋空港への 公共交通アクセスの強化・拡充に関する要望

平素は、県営名古屋空港の運営並びに利用促進等に関し、格別のご理解とご支援を賜わり、厚くお礼申し上げます。

さて、ご高承の通り、県営名古屋空港は通勤航空や小型航空機等を扱う都市型総合空港として、2005年2月の開港以来、担うべき役割を果たしております。特に、通勤航空につきましては、(株)フジドリームエアラインズ(FDA)によって、現在国内9都市へ1日あたり20往復が運航をされ、昨年度の定期便の年間利用者数は65万人を超え、利用者は順調に増加する(対前年度比107.8%)など、就航先との産業経済の発展や交流の拡大に貢献しております。

一方、県営名古屋空港及び周辺地域は、目下、政府から「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」の指定を受け、その基幹プロジェクトとして、MRJ(三菱リージョナルジェット)の生産・整備拠点化が鋭意進められているところでございます。そして今年1月から、三菱航空機(株)の本社機能が同空港へ移転し、現在、約1,500名が業務に従事しており、今後は関連・協力会社の社員を含めた従業員は更に増加し、2,000～3,000名となることが予想されております。

また、愛知県では、航空宇宙に係る産業観光拠点の整備、及び青少年の人材育成等を目的に、2017年度を目途として県営名古屋空港に“フィールドミュージアム”を整備する予定でございます。完成後は、国内有数の見学施設として注目が集まり、年間35万人(オープン当初は65万人)の利用を見込んでおります。

現在、県営名古屋空港への公共交通アクセスとして、名鉄バス(株)とあおい交通(株)によって、名古屋駅や西春駅、勝川駅からそれぞれバスを運行して頂いているところですが、今後、航空旅客や航空機生産拠点化に伴う通勤及びビジネス利用、観光を目的とした来港者等が大きく増加することが予想され、そのアクセスが大変心配されるところでございます。

つきましては、今後の公共交通需要を見据え、下記事項に関し、特段のご高配を賜わりますようお願い申し上げます。

記

1. 名古屋市内からのバス延伸(例えば、黒川駅や大曾根駅から空港行きバスの運行)によるアクセス強化を図られたい。
2. 上記以外にも、航空旅客や通勤客、来港者向けに今後のアクセス拡充策をご検討頂きたい。

平成27年7月29日

要望代表者

名古屋商工会議所 会頭 岡谷 篤一

愛知県 知事 大村 秀章

春日井市 市長 伊藤 太

小牧市 市長 山下 史守朗

豊山町 町長 鈴木 幸育

三菱航空機株式会社

代表取締役社長 森本 浩通

株式会社フジドリームエアラインズ

代表取締役社長 須川 恒次



空港ロゴマーク

開港3周年を機に、県営名古屋空港の一層のイメージアップを図り、利用促進につなげるため、作成したロゴマークです。

名古屋の頭文字「N」をモチーフに、「滑走路」を表す濃いブルーに、空に向かって飛び立つ「飛行機の軌跡」を表す淡いブルーを組み合わせ、日本各地や世界につながる空港を表しています。



空港マスコットキャラクター「なごびょん」

「なごびょん」は2010年2月17日の開港5周年を記念して、一般公募により選ばれ、誕生しました。

「なごびょん」は、人工物の飛行機と自然物の鳥が合体した不思議なキャラクターです。鳥のような飛行機の「なごびょん」は心もちます。その心を育てるのは、県営名古屋空港や地元の皆さんです。

今後「なごびょん」は、県営名古屋空港の利用促進のため、いろいろなところに飛んでいて、積極的なPR活動を行っていきます。